

よっかいちの自然

第4集 海岸、河口

よっかいちの自然
第4集 海岸、河口



四日市市

四日市市

表紙写真:磯津港の景観、ドフラインクラゲ、ビリンゴ

内扉写真:磯津上空の彩雲。黒い点は飛行機

裏表紙写真:飛行機雲、ハマガニ、ハマヒルガオ、ハマシギ、アサリ

よっかいちの自然

第4集 海岸・河口



絶滅危惧種のランクについて

※本書では絶滅危惧種のランクは、三重県レッドデータブック2015の表記を使用した

絶滅の危険度の高いものから順に

| | | |
|---------|----|-------------------------------|
| 絶滅種 | EX | 県内ではすでに絶滅したと考えられる種 |
| 絶滅危惧IA類 | CR | ごく近い将来絶滅の危険性が高い種 |
| 絶滅危惧IB類 | EN | IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 |
| 絶滅危惧II類 | VU | 絶滅の危険が増大している種 |
| 準絶滅危惧種 | NT | 生息条件によっては、「絶滅危惧種」に移行する要素を持つ種 |

発刊にあたって

本市は、中京工業地帯を形成する全国屈指の産業都市であるとともに、豊かな緑、清浄な水など自然にも恵まれ、実にさまざまな顔と魅力を有しています。とりわけ、国定公園である鈴鹿山系の緑豊かな樹林、丘陵地の里山、河川や湿地、市内唯一の自然海岸である吉崎海岸など、多彩な自然も本市の大きな魅力の一つといえます。

このような「恵み豊かな自然を守り、より良い環境を創り、将来の世代に引き継いでいくこと」が私たちに課せられた責務であります。

四季折々を感じられる豊かな自然環境を有する本市ですが、近年、開発や外来生物の侵入など、さまざまな要因により、その多様性が失われつつあります。

そんな本市の自然の現況を適切に把握し、多くの皆様に、市内の身近な自然に親しんでいただくため、第1集「丘陵地や山地の林」、第2集「河川・湿地・地質」、第3集「住宅地・公園・畑地」に続く第4集「海岸・河口」を発刊いたしました。本冊子では、海岸部で観察することができる海浜植物や野鳥、貝やカ二等の甲殻類をはじめ、普段見ることができない海の中の生物も見ることができます。

本冊子の活用により、身近な自然と触れ合う機会が増え、自然の尊さや自然を守る思いを育む一助になれば幸いに存じます。



四日市市長
森 智広

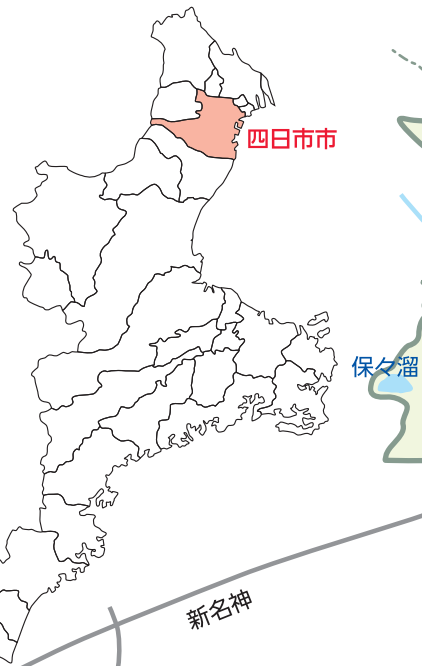
目次

| | |
|---|----|
| 四日市市の海岸・河口の概況 | 1 |
| 海浜植物 | 3 |
| ハマグリ蓄養場周辺の植物 海岸付近の樹木 | |
| 砂浜海岸の帰化植物 | 8 |
| 海岸付近の帰化植物 海岸付近の昆虫 | |
| 人と海の接点 干潟 | 13 |
| 干潟の貝類 汽水性の貝類 干潟の生き物 | |
| 干潟の甲殻類 | 19 |
| テトラポッド周辺の生き物 カキ床の生き物たち | |
| クラゲの仲間 | 29 |
| ウミウシの仲間 深場の貝類 | |
| 思いがけない出会い 漂着物 | 33 |
| 南方からの贈り物 海辺のフィールドサイン | |
| 三重県の鳥 シロチドリ | 39 |
| 消えたコアジサシのコロニー シギ・チドリの仲間 カモメの仲間 | |
| 河口や海上の野鳥 | 47 |
| 旧養魚池周辺の生き物 カイツブリの生活 海辺の猛禽類 | |
| 富洲原の底曳網漁 | 55 |
| 底曳網漁の混獲物 | |
| ハゼの仲間 | 59 |
| 沿岸の魚介類 海のプランクトン | |
| よっかいちの海藻 | 65 |
| 塩性植物 ハマボウ シラス取りの今昔 アカウミガメとスナメリ | |
| イラストマップ | 71 |
| 索引 | 73 |
| 参考に使った本 | 81 |



鈴鹿川本川河口の景観

鈴鹿川派川河口の景観



四日市市

保々溜



四日市市の海岸・河口の概況

四日市市は三重県の北部に位置し、鈴鹿山脈の標高1100mから伊勢湾に面した海岸部まで多様な環境を有している。

海岸線のおよそ半分はコンビナートや港湾施設が占め、立ち入りができない場所が多い。

吉崎海岸や鈴鹿川派川河口周辺には砂浜海岸があり、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマニガナなどの海浜植物が生育し、年によってはアカウミガメが上陸・産卵することもある。沿岸にはスナメリも生息する。

朝明川河口や鈴鹿川河口などには干潮時に干潟が現れ、かつては潮干狩りの人で賑わったこともあった。しかし、21世紀に入った頃より、河川から海に流入する有機物や栄養塩類が激減したことなどにより、泥質干潟や砂泥質干潟はほぼみられなくなり、砂質干潟や砂礫質干潟に変化している。その結果、泥や有機物を餌とするゴカイ類やカニ類、貝類などの生物の減少が著しく、それらを食べる食物連鎖上位の魚類や鳥類にも大きな影響を及ぼしている。

また、海の貧栄養化による問題をはじめとして、海水温の上昇や海洋プラスチックの問題などは、海の生物や漁業に対しても深刻な影響を与えるようになってきている。



楠漁港の景観



- 国指定天然記念物
- 市指定記念物 (天然記念物)
- ※川島町のシデコブシ群落は県指定

海浜植物

海岸の砂浜は、植物にとっては過酷な環境です。乾燥、砂の移動、海からの塩分、土壌の貧栄養、高温などにも耐えられる海岸特有の植物が生育しています。どの種類も地下茎が発達していたり、葉が厚くなっていたりします。また、ほとんどの植物は海流散布によって種子を運びます。



吉崎海岸で一面に花を咲かせるハマヒルガオ。花期は4月下旬から5月。近年はこのような大群落はあまり見られない。この写真の撮影は2013年。



ツルナはハマミズナ科の多年草。葉は柔らかく厚みがあり、食べられる。花はほぼ一年中咲き、花弁は無く黄色く見えるのは萼片。

ハマエンドウは、砂浜や磯浜れき はまに生えるマメ科の多年草。葉は4～6対の羽状複葉で、先端部の小葉は巻きひげとなる。赤紫色の花を4～5月に咲かせる。種子は4mmの球形で、海水に浮く。



ハマヒルガオの果実。中には黒い種子が4つ入っていて、海水に浮く。



コンクリートブロックの隙間で咲くハマヒルガオ。海岸からやや離れた場所にも生育する。主に地下茎を伸ばして広がっていく。



オカヒジキはヒユ科の一年草。葉は光沢のある多肉質。若い葉は食べられる。7～10月に花弁の無い花を咲かせる。

ハマニガナ【NT】はキク科の多年草。地下茎は長く伸び、葉を互生して葉柄は地中にあり、葉身だけを砂上に出す。花は春から秋まで咲く。



種子から発芽したハマボウフウの芽生え。花を咲かせるようになるには3～4年はかかる。



ハマボウフウはセリ科の多年草。花は5～6月中旬に咲く。主根はゴボウのように地中深くまっすぐに伸び、長さ1m以上になる。濃緑色の葉は厚く光沢があり、2回3出羽状複葉になる。



ハマボウフウの果実。熟すとバラバラになり、果皮にはコルク質が発達する。



吉崎海岸に広がるコウボウムギの大群落。干潟造成と称して海に砂を投入したために、写真右上の砂浜部分が広がり、汀線から遠くなったのでコウボウムギが増えた。



コウボウムギの雄花をつけた花序。花期は4～5月。



コウボウムギの雌花をつけた花序。



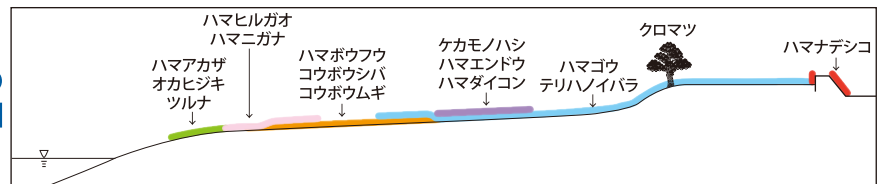
コウボウシバはコウボウムギに似るが、葉が細く緑色が濃い。4～5月頃、上部に雄小穂、下部に雌小穂のついた花穂を出す。



ハマダイコンはアブラナ科の越年草。ダイコンが野生化したとする説もある。花は春早く2～4月に咲く。果実(右)は数珠状にくびれる。果実は熟すと折れて分果となり、種子はコルク質で包まれる(左、分果を割った状態)。



海浜植物の分布概念図





ハマゴウはクマツヅラ科のほふく性落葉矮小低木。春に半ば埋もれた茎から芽を出す(左)。左上は何とも不可思議なハマゴウが描いた幾何学模様。青い花(上)は7~8月に咲く。果実(右上)は球形で、半分ほど萼に包まれる。



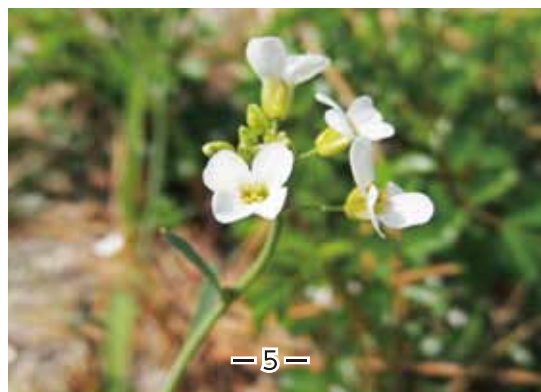
テリハノイバラは地面を這う数mの茎を伸ばして一気に生育範囲を広げる(左)。白い花(上)は6月に咲く。葉には光沢があり、晩秋に紅葉して(左上)、落葉する。右は赤くなった果実。本種は内陸部にも生育する。



ハマナデシコは海岸の背後にある堤防や石垣の隙間に生育するナデシコ科の多年草。葉はやや厚く光沢がある。茎の先から集散花序を出し、紅紫色の花を6月に咲かせる。白色の花もある。



ケカモノハシは花穂を合わせて80cmほどになるイネ科の多年草。2つの穂が合わさって円柱状の花穂となる。花期は7~8月。雌花が先に咲き、数日後同じ花穂から雄花が咲く。



タチスズシロソウ【CR】は高さ30cmほどになるアブラナ科の弱々しい越年草。花期は4月。以前は磯津漁港の周辺にわずかばかり生育していたが、今はもう絶滅している。(撮影は明和町)



ハマアカザ【EN】はヒユ科の一年草。種子が漂着して発芽する。7～10月に花弁の無い花を咲かせる。雌花の苞葉は花後大きくなり三角形。三重県は分布の南限。



マルバアカザはヒユ科の一年草。高潮線付近に生える。葉縁に半透明の縁取りがあり鋸歯はない。花は密集して穂状につく(右)。



ミヤコグサ(右)はマメ科の多年草。4～10月に黄色い花を1～3つける。よく似たセイヨウミヤコグサは花数が3～7と多い。



カワラナデシコはナデシコ科の多年草。レッドリストには記載されていないが、非常に少ない。花期は6～8月。



ゴキツル【EN】は水辺に生えるウリ科の一年草。葉は薄く、浅裂するものもある。花期は夏から秋。



アカザはヒユ科の一年草。シロザ(芽心が白い)の変種。若苗は食べられる。



カワラヨモギはキク科の多年草。根出葉には密に白い絹毛があるが、8～10月の花期には枯れる。



ハマボスは海岸の岩場に生えるサクラソウ科の越年草。花期は5～7月。右の蒴果は5mmの球形。

ハマグリ蓄養場周辺の植物



ハマウドはセリ科の多年草。アシタバに似るが茎を切っても黄汁を出さない。5月に花茎を2mも伸ばして花を咲かせる。



マツナはヒユ科の一年草。茎は直立し、よく枝分かれして60～100cmになる。河口部には生育しないので、輸入されたハマグリと共に種子が入り、帰化したものと思われる。若苗は食べられる。右上は星形の果実、右は秋の紅葉。

